



Keio University 慶應義塾

総合案内



〒108-8345 東京都港区三田2-15-45
TEL. 03(5427)1541(慶應義塾広報室)
<http://www.keio.ac.jp/>

2011.03



塾長 清家 篤

実学の精神で

今日の世界は、大きな変化の時代を迎えています。その変化は社会の様々な領域における持続可能性が問われるほどの大きなものです。こうした変化の時代に生きる個人に求められるのは、新しい状況を自ら正しく把握し、なすべきことを的確に選択する力、つまり自分の頭で考えることのできる能力です。

実は、それこそが慶應義塾の創立者である福澤諭吉が大切にしたい学問に他なりません。福澤はその著作『学問のすゝめ』や『文明論之概略』などで学問の大切さを繰り返し強調しています。なかでも福澤が強調したのは実学ということでした。この実学とは、自然科学のみならず、社会・人文科学をふくめた実証的な学問のことです。実証的な学問にもとづいて事物の真の姿を理解することで、古い時代の既成概念や思い込み、あるいは希望的観測や精神論などに流されることなく、何が正しいかを自ら判断できると考えたのです。

「恰(あたか)も一身(いっしん)にして二生(にしよう)を経(ふ)るが如く」(『文明論之概略』)。福澤は、幕末から明治維新を経て近代へと移り変わる日本の大変化を生きた自らの世代をこう表現しました。一人の人間がまるで二つの人生を生きたようなものだということです。このような激動期に、学問を頼りにして日本の近代化を牽引しようとしたのです。

そうした明治維新前後の時代と同じではありませんが、やはり大きな変化の時代である現代において、この福澤諭吉の実学の精神に立ちかえり、学問を進歩させ、それにもとづいて自分の頭でものを考えることができる力を育むことはますます重要になっています。慶應義塾は、そうした能力を育み、人材の育成、研究の発展、医療の充実などを通じて社会に貢献することを使命として、教育、研究、医療の質の一層の向上に努めています。

Contents

- 01 塾長挨拶
- 02 福澤諭吉と慶應義塾
- 05 一貫教育
- 06 学部
- 09 Keio Photographs
- 10 大学院
- 13 メディアセンター(図書館)・ITC
- 14 研究所・附属施設など
- 15 医療
- 17 慶應義塾を支えるネットワーク/奨学制度
- 18 公開講座・生涯学習/体育会
- 19 刊行物・関連組織
- 20 塾監局
- 21 キャンパス



幕末の大阪、蘭学者緒方洪庵の適塾に学んだ福澤諭吉は出身藩である中津藩の命を受け、江戸に出て蘭学塾を創始。進取の精神をもって欧米諸国を見聞した福澤は、帰国後、古いきまりや慣習にとられない教育を実践し、慶應義塾が継承する伝統の礎を築いたのです。2008年、慶應義塾は創立150年を迎えました。福澤諭吉が近代日本の先導者であったように、慶應義塾は新しい時代を先導していきます。

福澤諭吉と 慶應義塾

Prologue

- 1858 安政5年
福澤諭吉、蘭学塾を創始
- 1863 文久3年
英学塾に転向
- 1868 慶応4年
慶應義塾と命名
- 1871 明治4年
三田に移転
- 1874 明治7年
幼稚舎発足
- 1890 明治23年
大学部発足
- 1898 明治31年
一貫教育制度を樹立
- 1899 明治32年
私学初の海外留学生の派遣
- 1906 明治39年
大学院設置
- 1917 大正6年
医学教育の出発
- 1918 大正7年
看護教育の出発
- 1920 大正9年
旧制大学認可(文・経・法・医)
信濃町(四谷)キャンパス開設
- 1934 昭和9年
日吉キャンパス開設
- 1944 昭和19年
工学部開設
- 1957 昭和32年
商学部の開設
- 1962 昭和37年
ビジネス・スクール発足
- 1981 昭和56年
工学部を理工学部へ改組
- 1990 平成2年
湘南藤沢キャンパス開設
総合政策学部・環境情報学部開設
ニューヨーク学院(高等部)開校
- 1992 平成4年
湘南藤沢中等部・高等部開校
- 1994 平成6年
政策・メディア研究科の開設
- 2001 平成13年
看護医療学部の開設
- 2004 平成16年
法務研究科(法科大学院)の開設
- 2005 平成17年
健康マネジメント研究科の開設
- 2008 平成20年
創立150年を迎える
薬学部・薬学研究科の開設
システムデザイン・マネジメント研究科の開設
メディアデザイン研究科の開設

大阪の適塾に学び 江戸で開塾

藩の命を受け江戸で蘭学塾を開塾

安政2(1855)年からの3年あまり、福澤諭吉は、蘭学者、緒方洪庵が開いた大阪の適塾に学びました。福澤が20歳から23歳のとき、気力、体力ともに満ちた青春期でした。

入門はペリー来航の2年後、国の進路が定まらない幕末にあって、国や時代を超えて通用する科学的、合理的な考え方を適塾において蘭学を通じて学び取ったことは、福澤のその後に多大な影響を与えました。若者を愛するという教育者としての姿勢も、洪庵から受け継いだものといえるでしょう。

適塾で研鑽を重ね塾長となった福澤のもとに、故郷中津藩の江戸藩邸より、邸内の蘭学塾の指導者となれという藩命が届きました。福澤は早速出府。安政5(1858)年10月、江戸築地鉄砲洲(現在の東京都中央区明石町)に蘭学塾を開きました。慶應義塾の起源はここににあります。ただ、開かれたばかりの塾に正式名称はなく、当初は「福澤塾」などと呼ばれていたようです。

咸臨丸に乗り込み初の渡米体験

開塾した年の暮れから、時局は安政の大獄で揺れていました。そんななか福澤は、日米修好通商条約により外国船に開港されたばかりの神奈川の港(現在の横浜港)に出かけました。なかば物見遊山の横浜見物でしたが、そこでの体験は福澤に新たな転機をもたらしたのです。蘭学を通じて身につけたオランダ語が出会った西洋人



幕府の軍艦受取委員の随員としてワシントンにて(右端が福澤諭吉)

たちにまったく通じず、看板もビンのラベルも読めなかったのです。その事実は福澤を大いに落胆させた一方で、英語が世界に広く用いられていると聞いていただけに、開国後の日本に英語が必要になることを確信する体験にもなりました。これを機に英学へ転向した福澤は、日米修好通商条約の批准交換のため日本の使節団が渡米することを知るや、自らその一員となることを志願。軍艦奉行の従者として、咸臨丸に乗り込みました。

遠洋航海の経験がないうえ、悪天候にも行く手を阻まれた咸臨丸がサンフランシスコの港に到着したのは、出航して37日後のことでした。

「慶應義塾」と命名し教育の理念を確立

初めて異国の地を踏んだ福澤は、持ち前の好奇心と向学心を旺盛に発揮。通訳として随行した中浜万次郎(ジョン万次郎)とともに、現地では『ウェブスター辞書』を購入し日本に持ち帰っています。滞在中、英語力向上にも励んだ結果、文久2(1862)年の幕府遣欧使節には通詞として加えられ、約1年間にわたり欧州各国を巡遊します。西洋文明を肌で感じた福澤は帰国後、その合理性を教育の根幹とし、塾運営に本腰を入れました。「独立」や「実学」など、現在も義塾が大切にしている理念は、このときすでに福澤教育の基礎となっています。

2度目の渡米から帰国した福澤は、翌年の慶応4(1868)年、塾舎を芝新銭座(現在の港区浜松町)に移転するとともに学塾の組織を新たにし、近代学塾としての礎を構築。あわせて時の年号にちなみ、学塾に「慶應義塾」という名称を冠したのです。

学問の近代化と 先見の姿勢

私立総合大学の先駆けとして

時代が明治になると、文明開化の機運のなか、近代教育の先進にある慶應義塾には、初等教育



の必要性も高まりました。そこで明治7(1874)年、福澤門下生の一人、和田義郎が通称「和田塾」を開き、年少者を訓育。これがのちに幼稚舎となります。

大学の発足は、明治23(1890)年。ハーバード大学の協力により3人の外国人教師を迎え、文学、理財、法律の3科を設置し、わが国における私立総合大学の先駆けとなりました。

福澤生前も没後も、慶應義塾は財政や社会情勢により幾度となく存続の岐路に立たされましたが、その都度志をともにする義塾で学んだ人々が協力し合うという「社中協力」の理念により危機を乗り越り、結束を一層固くしてきました。

その後、日本の高度経済成長前夜の昭和32(1957)年に商学部を開設。平成2(1990)年には湘南藤沢キャンパスを開設するなど、常に慶應義塾は時代の要請に先んじた改革に取り組み、次の世代を担う人材の育成に力を注いできました。そして平成20(2008)年、創立150年を迎えたのです。

義塾

福澤以前にも義塾の用例はありますが、福澤は英語の“パブリック・スクール”を参考に、志を同じくする人々が協力し合って維持する学塾という意味を込めました。

独立自尊

「独立」は国家権力や社会風潮に迎合しない態度、「自尊」は自己の尊厳を守り、何事も自分の判断・責任のもとに行うことを意味し、これは慶應義塾の教育の基本です。

実学

福澤がいう実学は、単に実際に役立つ学問ではなく、「科学(サイエンス)」を指します。この科学を単なる知識としてでなく、実際の行動に活かせるように学ぶことが義塾伝統の「実学の精神」です。

気品の泉源

福澤は学問を修得して智徳を身につけた者は自ずと「気品」を備えていると考えました。人格を伴う社会の先導者を育てることが、義塾における教育の目標の一つです。

社中協力

社中は、学生・教職員・卒業生など、すべての義塾関係者の総称。社中は塾の運営を人的にも経済的にも支え、社会においても協力しあうという義塾の誇るべき伝統です。

自我作古

「我より古を作す」とよみ、前人未踏の新しい分野に挑戦し、たとえ困難や試練が待ち受けていても、それに耐えて開拓に当たるといふ、勇気と使命感を表した言葉で、義塾の信条となっています。出典は中国の「宋史」。

半学半教

学業の進んだ者が他の者を教え、同時にさらに上級の者に学ぶという仕組み。学問に対する志を同じくする者が協同で塾を維持運営するという草創期の精神は今も受け継がれています。

三色旗

慶應義塾のシンボル・塾旗は一般に三色旗と呼ばれていますが、実際は青・赤・青と2色を3段階に配したもので、左肩にペンの徽章が入っています。式典などのときに張る紅白幕の白地の汚れが目立たないよう、薄青の色をつけたのが始まりといわれます。

三色旗

慶應義塾のシンボル・塾旗は一般に三色旗と呼ばれていますが、実際は青・赤・青と2色を3段階に配したもので、左肩にペンの徽章が入っています。式典などのときに張る紅白幕の白地の汚れが目立たないよう、薄青の色をつけたのが始まりといわれます。

ペンの徽章

明治20(1887)年前後、塾生が考案し、それがやがて公認になったもので、一説には、教科書にあった「ペンには剣に勝る力あり」の語にヒントを得たものといわれています。



医学部食養研究所(1926年竣工)



日吉 藤原工業大学校舎(1943年竣工)



三田 煉瓦講堂(1887年竣工)



三田 大講堂(1915年竣工、設計：曾禰達蔵)



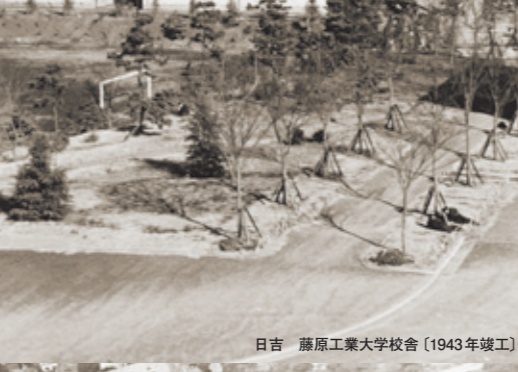
三田 学生ホール(1949年、設計：谷口吉郎)



小泉信三塾長訓示(大講堂)(写真：三木淳)



三田 大学部校舎(1904年竣工)



三田 大学部校舎(1904年竣工)



関東大震災前の三田航空写真(1920年頃)



三田 大学部校舎(1904年竣工)



三田 大学部校舎(1904年竣工)

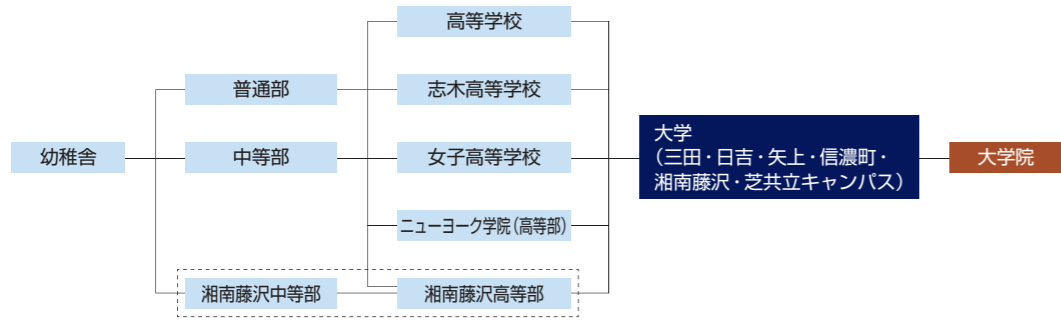


三田 大学部校舎(1904年竣工)



三田 大学部校舎(1904年竣工)

一貫教育



幼稚園

www.yochisha.keio.ac.jp/



学びと遊びを通じた
独立自尊。

子ども各々が持つ好奇心や感受性を育み各自の持つ可能性をできる限り伸ばすよう努めています。各々が違う能力と個性を持つ者として認め合い、助け合い、高め合う、そうした関係を作り上げていく過程を通して一人ひとりの成長を見守っていきます。

【連絡先】〒150-0013
東京都渋谷区恵比寿2-35-1
tel.03-3441-7221(代)
【入学定員】144名

高等学校

www.hs.keio.ac.jp/



新しい息吹と若さにあふれ、
独立自尊の気風を養う。

昭和23(1948)年設立の慶應義塾第一・第二高等学校が統合して発足。恵まれた環境で、勉強・スポーツなどに3年間情熱を傾けることができます。多彩な選択科目や高大一貫講座など各自の個性を伸ばす教育を実践しています。

【連絡先】〒223-8524
神奈川県横浜市港北区日吉4-1-2
tel.045-566-1381(代)
【入学定員】810名

普通部

www.kf.keio.ac.jp/



自ら考えて行動する大切さを
身をもって学ぶ。

安政5(1858)年発足の蘭学の家塾に始まる、伝統ある「普通部」の名を継ぐ男子中学校。豊かな感性を培う教育を大切にし、自主的な作品の研究発表「労作展」、卒業生による普通部生への授業「目路はるか教室」など、実践的な教育も活発です。

【連絡先】〒223-0062
神奈川県横浜市港北区日吉本町1-45-1
tel.045-562-1181(代)
【入学定員】240名

志木高等学校

www.shiki.keio.ac.jp/



豊かな自然環境、ふれあい教育から
育まれる大らかな校風。

昭和23(1948)年開設の慶應義塾農業高等学校を前身とし、基礎的な学問の習得を旨としています。独立自尊の気風を持つことができるよう人間的なふれあいと個性を尊重し、心身両面の育成に尽力しています。

【連絡先】〒353-0004
埼玉県志木市本町4-14-1
tel.048-471-1361(代)
【入学定員】250名

中等部

www.kgc.keio.ac.jp/



自由の中に規律を求め、
早期に社会性を獲得。

昭和22(1947)年、慶應義塾初の男女共学の中学校として誕生。生徒各人が主体性・自発性を発揮して自ら考えて行動し、その結果に責任を持つ習慣を身につけられるよう、教員はきめ細かくフォロー。課外活動も重視し、高い社会性を養います。

【連絡先】〒108-0073
東京都港区三田2-17-10
tel.03-5427-1677(代)
【入学定員】240名

女子高等学校

www.gshs.keio.ac.jp/



規則ではない伸びやかな
環境が、独立した人格を育む。

昭和25(1950)年に創設された慶應義塾中等教育段階で唯一の女子校。生徒の自主性を重んじ、各人がはつらつと自己を実現するよう、ゆとりある教育を実践。各自の興味や進路を考えて学べる環境が整っています。

【連絡先】〒108-0073
東京都港区三田2-17-23
tel.03-5427-1674(代)
【入学定員】192名

湘南藤沢中等部・高等部

www.sfc-js.keio.ac.jp/



計画的な6年間一貫教育で、
バランスのとれた教養人を育成。

中高一貫教育によって生徒の個性を継続的・発展的に伸ばすことを目的に、平成4(1992)年に開校。「異文化交流」と「情報教育」を柱に、生徒の資質に応じた教育を実践しています。生徒はのびのびとして活力にあふれています。

【連絡先】〒252-0816
神奈川県藤沢市遠藤5466
tel.0466-49-3584~3586(代)
【入学定員】中等部160名 高等部240名

ニューヨーク学院(高等部)

www.keio.edu/



バイリンガル・バイカルチュラル
教育による国際性・人間力の涵養。

平成2(1990)年に開設した、ニューヨーク州高等学校卒業資格も取得できる男女共学高等学校。平成13(2001)年6月には、同州私立学校連盟(NYSAIS)認定校にもなりました。授業はバイリンガルで行い、ディスカッションも多く取り入れることにより人間力を養います。

【連絡先】
3 College Road, Purchase, NY10577 U.S.A.
tel.+1-914-694-4825
【入学定員】9学年、10学年 各60名

各個人の能力や適性を生徒自らが発見し成長させる機会を、それぞれの時期にふさわしい形で提供することが、慶應義塾の小・中・高等学校での一貫した目的です。各校とも慶應義塾の基本理念に基づき、かつ独自の方針・校風を持つことで、多様多彩な人材を育成しています。

学部

明治23(1890)年、慶應義塾は文学・理財・法律の3科を擁する、日本の私学初の大学部を開設しました。その後、明治31(1898)年に政治科を、大正6(1917)年に医学部を創設し、大正9(1920)年の大学令公布にともない、文学部・経済学部・法学部・医学部で構成される総合大学へと発展を遂げました。さらに昭和19(1944)年には工学部を設置しました。昭和24(1949)年からは新制大学となり、昭和32(1957)年に商学部を設置。昭和56(1981)年には工学部を理工学部へ発展改組

しました。時代が平成に移り、平成2(1990)年に新キャンパスとして湘南藤沢キャンパス(SFC)を開設、総合政策学部と環境情報学部を設けました。平成13(2001)年には看護医療学部を、平成20(2008)年には薬学部を開設しました。多様な領域をカバーするこれら10学部が、建学以来の“実学の精神”を共有しつつ、それぞれ自由な発想に立って個性と特色ある教育・研究活動を進めています。

学部	学科	専攻	入学定員	就学キャンパス						
				1	2	3	4	5	6	
文学部	人文社会科学	哲学系：哲学／倫理学／美学美術史学	800	■	■	■	■	■	■	■
		史学系：日本史学／東洋史学／西洋史学／民族学考古学								
		文学系：国文学／中国文学／英米文学／独文学／仏文学								
		図書館・情報学系：図書館・情報学								
	人間関係学系：社会学／心理学／教育学／人間科学									
経済学部	経済学科		1,200	■	■	■	■	■	■	■
法学部	法律学科		1,200	■	■	■	■	■	■	■
	政治学科									
商学部	商学科		1,000	■	■	■	■	■	■	■
医学部	医学科		112	■	■	■	■	■	■	■
理工学部	機械工学科	数学／統計学	932	■	■	■	■	■	■	■
	電子工学科									
	応用化学科									
	物理情報工学科									
	管理工学科									
	数理科学科									
	物理学科									
化学科										
システムデザイン工学科										
情報工学科										
生命情報学科										
総合政策学部	総合政策学科		425	■	■	■	■	■	■	■
環境情報学部	環境情報学科		425	■	■	■	■	■	■	■
看護医療学部	看護学科		100 2年次学生編入5	■	■	■	■	■	■	■
薬学部	薬学科		150	■	■	■	■	■	■	■
	薬科学科		60	■	■	■	■	■	■	■

通信教育課程	文学部		3,000						
	経済学部(商学部の内容を含む)		4,000						
	法学部		2,000						

学 部



文学部

www.flet.keio.ac.jp/

文明に関する幅広い領域を通して、豊かな教養と深い専門性を培う。

文学部は明治23(1890)年の大学部創設時に設置された文学科を前身とします。長い歴史のなかで多くの優れた研究者を輩出するとともに、日本の文明の発展に寄与する重要な業績をあげてきました。文学部は「文」に関するすべての領域を対象とし、真の教養人と専門家を育成しています。その特徴は17に及ぶ専攻と2つの部門を展開しているという極めて豊かな多様性にあります。文学部は学芸・文学・芸術など「文」に代表される広い学問分野を網羅して、過去から未来へつながる文化と文明の本質の追及を理念とする学部です。

法学部

www.law.keio.ac.jp/

論理的な思考、創造的精神を高め社会と人間に対する深い理解を培う。

法律学科は明治23(1890)年、政治学科は明治31(1898)年に開設され、大正9(1920)年に法学部として統合されました。法律学科は法律専門家の育成だけでなく個人の社会生活向上のために英知を提供することをその使命と認識し、高い見識と広い視野を支えられたリーガルマインドを養うことを目標としています。政治学科は様々な政治的、社会的問題に対して、的確な分析力、判断力、構想力を発揮してリードできるゼネラリストとしての能力育成をめざしています。これらの学問を通して、論理的な思考、創造的精神を高め、社会と人間に対する深い理解を持つ人材を育成することが法学部の目的です。

商学部

www.fbc.keio.ac.jp/

「実学」の精神を受け継ぎ、現代の産業社会を探究し未来の組織のリーダーを育てる。

商学部は、昭和32(1957)年、慶應義塾の創立100年を記念し設立されました。その教育には福澤諭吉の「実学」の精神が一貫して浸透しており既存の知識体系を再構築するとともに、現実の諸問題を解決するための創造的な発想をも兼ね備えた、時代の一步先を見通せる組織のリーダーを育成することを目標に、現代の産業社会全体を対象として、他にない幅広さと奥行きを持つ学部として屹立しています。「経営学」「会計学」「商業学」「経済・産業」の4分野を核にどのような課題にも幅広い視野から取り組み、その方向性を洞察できる能力を身につけることを目標としています。

経済学部

www.econ.keio.ac.jp/index.shtml

世界の経済社会が抱える問題を見つめその解決に寄与するリーダーを育成。

開塾以来の伝統を持つ慶應の経済学。明治23(1890)年、大学部理財科開設時にハーバード大学のドロップス教授を招聘し最先端の経済学教育システムを導入して以来、常に日本をリードする高水準の教育を実践し経済界をはじめ社会の第一線に数多くの人材を輩出してきました。従来から専門教育担当者の多くが本学部の出身者ですが、近年は外部から優れた研究者を招き、より広い見地からの教育・研究の推進に努めています。平成17(2005)年にはカリキュラムを改革、さらに広範囲な視野で世界の経済社会が抱える問題を見つめその解決に寄与するリーダーの育成に力を注いでいきます。

医学部

www.med.keio.ac.jp/

知識と技術、豊かな人間性を兼ね備えた信頼ある医療人を育成。

医学部は大正6(1917)年、世界的細菌学者である北里柴三郎を学部長に迎え、慶應義塾医学科として発足しました。爾来90年、北里が示した民衆のための実学としての医学の実践は、現代にあっても揺るぐことのない医療のあるべき姿です。本学部は、「基礎医学と臨床医学の連携の重視」をはじめ北里が示した理想の医学教育を体現するため、Early Exposure Program、自主学習、海外派遣プログラムなど、自主性尊重と深い倫理観に基づく人格涵養を基盤とした特色あるカリキュラムにより、知識と技術、豊かな人間性を兼ね備えた信頼ある医療人の育成に努めています。

理工学部

www.st.keio.ac.jp/

統合化・総合化された学問体系により新しい科学技術の創造をめざす。

理工学部の歴史は、昭和14(1939)年、製紙王・藤原銀次郎による藤原工業大学の創設に始まります。昭和19(1944)年に同大学が慶應義塾に寄付されて慶應義塾大学工学部が誕生、昭和56(1981)年に理工学部へと改組されました。平成12(2000)年4月に未来の理工学の姿をめざし、学部・大学院全体が専門の壁を越えて教育研究に有機的に協力し合える、柔軟で多彩な教育研究組織体制をスタート。さらに、平成14(2002)年には、生命情報学科を新設し教育・研究活動内容のさらなる充実を図りました。お互いが協力・啓発し合い、より高次の成果を発現することで新たな科学技術の創造をめざしています。

看護医療学部

www.nmc.keio.ac.jp/

21世紀が求める看護医療のあり方を実践し、先導する人材を育成。

看護医療学部は、平成13(2001)年4月に慶應義塾大学9番目の学部(男女共学)として誕生しました。慶應義塾における長い看護教育の歴史を引き継ぐだけでなく、総合大学としてのメリットを活かした、他学部と連携した教育・研究の実践をその特色としています。高齢化などが進む現代においては、保健・医療・福祉の3領域の機能を一体化して考える新しいシステムが求められています。本学部は21世紀が求める看護医療のあり方を実践し、先導する人材を育成するとともに、新しい看護医療システムの研究と構築を通じ、広く社会に貢献することをめざしています。

総合政策学部

www.sfc.keio.ac.jp/

「実践知」を理念とした「問題解決のプロフェッショナル」を育成。

総合政策学部は、平成2(1990)年、湘南藤沢キャンパスに開設。同時に開設した環境情報学部とカリキュラムを共有しており、それぞれの学生は2つの学部を自由に行き来して学んでいます。いま我々が直面している21世紀の世界の問題の解決に必要なのは、政府による「公共政策」のみならず、企業や非営利組織、個人といった様々なアクターの協働による解決への「処方箋」です。総合政策学部は「実践知」を重視しながら、ひとつの学問領域だけでは解決困難な多様な問題の解決に資する新しい「知」を生み出す力を涵養します。情報言語や外国語の実践的な教育、国内外各地でのフィールドワークも充実。問題を的確に見定め、その解決方法を提案し、実行までできる「問題解決のプロフェッショナル」を育成します。

薬学部

www.pha.keio.ac.jp/

薬学の未来を先導する全人的な薬学人を育成する。

薬学部は、平成20(2008)年4月、共立薬科大学との合併により慶應義塾大学10番目の学部として誕生しました。薬学部では薬学に関する教育ならびに研究を行い、すぐれた薬剤師、卓越した薬学研究者を育成します。総合大学のメリットを活かして、薬に関わる人への教養教育・専門教育を通しての全人教育を行うことによって、従来の薬剤師にとどまることなく、医薬品、食品、医療、環境分野などで高度な研究開発に関わる人材、経済界を先導する人材、薬学の知識を活かし政策立案・実践する未来の国際社会における総合的な健康生活コンサルタントを養成します。

環境情報学部

www.sfc.keio.ac.jp/

最先端のサイエンス、テクノロジー、デザインで未来社会に貢献する人材を育成。

環境情報学部は、平成2(1990)年、湘南藤沢キャンパスに開設。総合政策学部とカリキュラムを共有し、学生は二学部を自由に行き来して学んでいます。最先端のサイエンス(脳科学、身体科学、生命科学、情報科学、環境科学等)、テクノロジー(ICT、空間情報技術、エレクトロニクス、バイオテクノロジー等)、デザイン(メディアデザイン、デジタルアート、建築・環境デザイン等)を駆使し、柔軟に人文・社会科学と融合することによって、地球、自然、生命、人間、社会を理解し、未解決の問題に取り組み、解決策を創造します。平成23(2011)年秋から、これまでの日本語での授業に加え、卒業に必要な単位を英語のみでも修得できるGIGAプログラムがスタートし、留学生にもさらに門戸を広げるなど、グローバルなキャンパスづくりが進んでいます。「環境と情報の世紀」におけるグローバルリーダーを育成します。

通信教育課程

www.tsushin.keio.ac.jp/

全国で約9,000人の学生が「正科生」として学習。

昭和22(1947)年に大学通信教育制度が制定されたのを受け、慶應義塾では翌年に文・経済(後に商学部関係の科目含む)・法学部の通信教育課程を開設。昭和25(1950)年には、通信教育課程も正規の大学として認可されました。平成18(2006)年より外国語授業の一部をオンデマンド配信し、平成20(2008)年からはメディア授業(インターネット)を開講しています。教員組織は通学課程と同じ教員で構成され、学生は所定の単位を修得すれば通学課程と同じく慶應義塾大学の卒業生として、学士の学位を取得できます。現在、全国で約9,000人の「正科生」が、慶應義塾の一員としての誇りを持って学習に取り組んでいます。



Keio Photographs



大 学 院

大学院は近年、研究者や大学教員養成機関としての役割とともに、高度な専門性を備えた職業人を社会の第一線に輩出することが重要な機能の一つとなりつつあります。同時に、学部教育の充実度に並び、大学院がいかにか質の高い研究を行い、その成果を社会に還元できるかが、大学評価の決定的な基準となりつつあります。慶應義塾大学の大学院は、その活動の目的を“学理及びその応用を教授研究し、学術の深奥を究めて文化の進展に寄与すること”と学則に定め、社会への

貢献を明確に謳っています。この共通目的のもと、各研究科ではそれぞれ独自の理念と目標を設定し、主体性を持って教育研究活動を進め、知の最先端機関にふさわしい取り組みを積極的に展開しています。大学院を舞台とする先端的な学術研究活動は、未来へ向けて慶應義塾がさらなる飛躍をめざすうえで、ますます重要な役割を担うものになっています。

研究科	課程	専攻	入学定員	就学キャンパス	
文学研究科	修士課程	哲学・倫理学	130	三田キャンパス	
		美学美術史学			
史学					
国文学					
中国文学					
英米文学					
独文学					
仏文学					
図書館・情報学					
後期博士課程	専攻は修士課程と同じ	45			
経済学研究科	修士課程	経済学	70	三田キャンパス	
	後期博士課程	専攻は修士課程と同じ	15		
法学研究科	修士課程	民法法学	150	三田キャンパス	
		公法学			
	政治学	公共政策専修コース ジャーナリズム専修コース			
	後期博士課程	専攻は修士課程と同じ(但し専修コースはなし)			30
社会学研究科	修士課程	社会学	40	三田キャンパス	
		心理学			
		教育学			
後期博士課程	専攻は修士課程と同じ	11			
商学研究科	修士課程	商学	80	三田キャンパス	
	後期博士課程	専攻は修士課程と同じ	20		
医学研究科	修士課程	医科学	20	信濃町キャンパス	
	博士課程	医学研究系	60		
		医療科学系	8		
理工学研究科	修士課程	基礎理工学	数理科学専修	600	矢上キャンパス
			物理学専修		
			分子化学専修		
			物理情報システム専修		
			生物化学専修		
		生命システム情報専修			
		総合デザイン工学	マルチディシプリナリ・デザイン科学専修		
			システム統合工学専修		
			スマートデバイス・システム工学専修		
			光・像情報工学専修		
			機能デザイン科学専修		
		開放環境科学	空間・環境デザイン工学専修		
			環境・資源・エネルギー科学専修		
			応用計算力学専修		
コンピュータサイエンス専修					
後期博士課程	専攻は修士課程と同じ	150			
政策・メディア研究科	修士課程	政策・メディア	200	三田キャンパス	
	後期博士課程	専攻は修士課程と同じ	50		
健康管理研究科	修士課程	看護・医療・ スポーツマネジメント	看護学専修 医療マネジメント専修 スポーツマネジメント専修	40	湘南藤沢キャンパス
		後期博士課程	専攻は修士課程と同じ	10	
	修士課程	薬科学	20		
薬学研究科	後期博士課程	医療薬学	6	芝共立キャンパス	
	修士課程	経営管理	100		
経営管理研究科	後期博士課程	専攻は修士課程と同じ	8	三田キャンパス	
	修士課程	システムデザイン・マネジメント専攻	77		
システムデザイン・マネジメント研究科	後期博士課程	専攻は修士課程と同じ	11	日吉キャンパス	
	修士課程	メディアデザイン専攻	80		
メディアデザイン研究科	後期博士課程	専攻は修士課程と同じ	10	三田キャンパス	
	専門職学位課程	法務	230		



文学研究科

www.flet.keio.ac.jp/dep/gradl.html

伝統を受け継ぎつつも新しい試みに取り組む。

昭和26(1951)年、新制修士課程が発足、昭和28(1953)年には博士課程を開設し、以後順次拡充を進めてきました。同年には全設置科目の半期化も行いました。さらに、平成16(2004)年には図書館・情報学専攻に情報資源管理分野、平成17(2005)年には美学美術史学専攻にアート・マネジメント分野、平成19(2007)年には国文学専攻に日本語教育学分野を設置しています。ドイツのハレ大学とのダブルディグリー制度や経済学研究科修士課程とのジョイントディグリー制度も始まりました。他大学との単位互換制度や博士学位の取得促進を図るなど、伝統を踏まえつつ新しい試みに取り組んでいます。

社会学研究科

www.flet.keio.ac.jp/dep/grads.html

多彩な研究領域をカバーし、修了者は国内外の幅広い分野に進出。

昭和26(1951)年、社会学専攻修士課程として開設され、現在は修士・博士課程ともに社会学・心理学・教育学の3専攻を擁し多彩な研究領域をカバーしています。学部とは独立して多角的な研究を行うことをめざしており、研究科委員には文学部の社会学・心理学・教育学・人間科学専攻の教員に限らず、塾内の他学部・研究機関の教員も数多く関わっています。また、学生の出身も塾内外を問わず多様な広がりを見せており本研究科で学んだ者は、大学教員・研究職のほか、官公庁、国際機関、民間シンクタンク、マスコミ、各研究所や福祉関係、教職関係など、国内外の幅広い分野に進んでいます。

経済学研究科

www.econ.keio.ac.jp/index.shtml

経済学部の伝統を受け継いで優れた研究を行い、有為の人材を輩出。

明治期以来、義塾の理財科、旧制経済学部・経済学研究科は、わが国の経済学の発展に重要な役割を果たしてきました。その伝統を受け継ぎ、昭和26(1951)年に修士課程、昭和28(1953)年に博士課程を開設しました。以来、経済学説史研究、新古典派理論・ケインズ理論、計量経済学、財政学、経済史研究、経済政策・社会政策、社会経済思想史など、経済学のほとんどすべての分野にわたって、日本を代表する優れた研究を行い、有為の人材を輩出しています。平成19(2007)年より他大学との単位互換制度を導入、また平成21(2009)年よりパリ政治学院とのダブルディグリー・プログラムを開始するなど、教育体制の一層の充実を図っています。

商学研究科

www.fbc.keio.ac.jp/

「実学の精神」を継承し、現代社会の進歩と変革への方向を洞察。

昭和32(1957)年に経済学部から分離独立した商学部を母体に、昭和36(1961)年に開設。理論と実証を通じてグローバル化した現代社会を把握し、その進歩と変革への方向を洞察していくという基本理念に基づき、修士課程では研究職コースと会計職コースを設け、研究教育者、あるいは高度管理・専門職の育成をめざしています。会計職コースでは、会計、経営、ファイナンス、ガバナンスなどの最新の理論を教育し、会計専門職、企業人のリーダーを養成します。研究職コースおよび後期博士課程では、国内外の大学、研究機関、シンクタンクなどで活躍する質の高い研究教育者を養成します。

法学研究科

www.law.keio.ac.jp/

常に改革に取り組み、時代に即した研究指導体制を整備。

昭和26(1951)年に民事法学と政治学の2専攻で発足し、昭和38(1963)年に公法学が独立して現在の3専攻になりました。以後、時代に即した大学院の拡充と研究指導体制を整備すべく、常に改革に取り組んでいます。例えば専攻に関係なく履修できるプロジェクト科目、高度の知的スペシャリストを養成するための専修ユニットという構想のもと、関連する他研究科の設置科目を履修できるシステムなどを課程に組み込みました。民事・公法学専攻では、法理論だけではなく実務的能力の養成、研究者を目指す者に必須の基礎法学的素養を身につけるなどのカリキュラムを実施。政治学専攻では、多角的な授業体制で専門領域の深化を図っています。なお、2009年に政治学専攻修士課程に専修コース(公共政策、ジャーナリズム)を新たに設置しました。

医学研究科

www.med.keio.ac.jp/

豊かな人間性と学識を持つ医学研究者および教育者の養成をめざす。

昭和31(1956)年設置の博士課程と平成6(1994)年に開設された修士課程で組織されています。世界をリードする優れた研究チームの一員として充実した設備を活用しながら、豊かな人間性と学識を持つ優れた医学研究者および教育者の養成をめざしています。博士課程は独創的な医学研究を行える人材育成をめざす医学研究系専攻と、職種を変えて高度な知識とそれを実践するスキルの習得を臨床実務とのバランスをとり教育する医療科学系専攻の2専攻38分野を設置しています。修士課程は、高齢化社会を迎え身近な問題として医療や福祉に対する人々の関心が高まるなか、医師以外の方にも門戸を開き医学・医療に関わる専門家を育成することを目標にしています。

理工学研究科

www.st.keio.ac.jp/

分野横断型の3専攻制で先端科学の広範な分野をカバー。

平成12(2000)年の組織改革で誕生した3専攻体制(基礎理工学専攻、総合デザイン工学専攻、開放環境科学専攻)は、柔軟な組織構造となっており、自由に研究分野を横断できるトランスディシプリナリな教育を提供しています。各専攻内に設けられた教員の教育・研究ユニット「専修」も定期的な改編が制度化され、平成22(2010)年には再編成が行われました。また平成15(2003)年9月には、すべての講義を英語で行う「先端科学技術国際コース」を開設しています。こうした教育研究環境を通して、学生のフロンティア精神を育み、秘めた創造的能力を最大限に引き出し、次の最先端を切り拓き社会を先導する人材を育成することが、理工学研究科の使命です。

経営管理研究科

www.kbs.keio.ac.jp/

オープンな学習環境の中で総合的なマネジメント能力を身につける。

修士課程では明日の企業経営を担う総合的なマネジメント能力を備えた革新的リーダーの養成をめざしています。学生の大半は学部卒業後5～7年の実務経験を持つ社会人学生で、約3割は企業からの派遣生、残りの約7割は自費で学ぶ学生で、2年間の課程修了後は経営管理や企業戦略に関わる第一線で活躍しています。博士課程では経営管理教育機関での研究・教育を担う専門学識者や、高度専門研究者の養成をめざしており、こうした機関に就職しています。生涯学習をサポートする大学院として、企業人や研究者が広く集まり、互いに研鑽し合える、オープンな学習環境の創造に努めています。

政策・メディア研究科

www.sfc.keio.ac.jp/

技術と社会の融合をコラボレーションで実践する。

修士課程は、多様な社会のニーズに応える専門知識と実践的な問題発見・解決能力を身につけた“高度な職業人”の養成を、後期博士課程は豊かな独創性や先端性のある研究により国際的に活躍できる研究者・教育者・専門家の養成をめざしています。研究領域は政策・組織・環境・ICT・メディア・生命科学・社会イノベーションなど、8つの「プログラム」でカバーされ、プロジェクトへの参加を前提とした能動的なカリキュラムを構成。また、修士課程修了後に高度なプロフェッショナルとして活躍する一定のキャリア領域を想定した「プロフェッショナル育成コース」や海外大学院とのダブルディグリープログラム制度の実施などを通じ、国際的に開かれた大学院としてさらなる発展をめざしています。

システムデザイン・マネジメント研究科

www.sdm.keio.ac.jp/

次世代の技術・社会システムをデザインする。

プロダクト開発環境の複雑化・グローバル化、タイムスケールの短縮に対応し国際的な視野・常識の必要性が高まり、非技術分野の知識と素養を身につけた人材に対する要求が高まっています。企業規模や業種によらず、新しいシステムをデザインできるシステムデザイナー、確実な開発を担うプロジェクトマネージャーを育成することが急務です。このような社会的要請に応える形で、システムデザイン・マネジメント研究科では1～2年次にわたって技術的知識ばかりでなく、ヒューマンスキル、国際コミュニケーション能力など、科学技術に留まらない幅広いものの見方を身につけられるように教育・研究課程を編成しています。

健康マネジメント研究科

<http://gsh.m.sfc.keio.ac.jp/>

保健・医療・福祉・スポーツの領域を見渡した学際的・先進的領域の開拓をめざす。

「健康」を軸として保健・医療・福祉・スポーツの広い領域を見渡した学際的・先進的学問分野・領域の開拓をめざし平成17(2005)年に開設されました。本研究科には「看護・医療・スポーツマネジメント専攻」が置かれ、その中に「看護学」「医療マネジメント」「スポーツマネジメント」の3つの専修を設置しています。3専修は相互に有機的に影響し合い、柔軟に連携し、社会との関わりを基盤として保健・医療・福祉・スポーツの未来のあり方を見通せる広い視野・洞察力・実践力、そして疾病から健康に至る科学的知識に基づく高度なマネジメント能力を併せ持った研究者、実務家の育成をめざします。

メディアデザイン研究科

www.kmd.keio.ac.jp/

デジタルメディア分野における創造リーダー「メディア・イノベータ」を育成する。

本研究科では、大量生産時代が終焉(ポスト工業化社会)の最終段階を向かえ創造社会がすでに始まりつつあるという認識のもと、社会を先導する創造リーダー「メディア・イノベータ」を育成します。メディア・イノベータは、デジタルメディア分野において、デザイン、テクノロジー、マネジメント、ポリシーの4つの力(創造性)を調和・統合し、新たな価値を創造する人材であり、その育成を可能にするため4つの各領域がバランスよく配置されたカリキュラム体系となっています。また、現実社会の問題解決を対象とした先端的研究プロジェクト(リアルプロジェクト)を行い実践力を高めるとともに、英語で学位を取得できる研究科として、国際化に力を入れています。

薬学研究科

www.pha.keio.ac.jp/

創薬研究と臨床に密着した研究で人類に貢献する。

薬科学専攻(修士課程2年、博士課程3年)は薬科学科(4年制)と連携した専攻で、創薬から環境、生命科学など幅広い薬学関連分野での研究教育を通して、人類に貢献できる研究者を養成します。薬学専攻(博士課程4年平成24年度開設)は薬学科(6年制)と連携した専攻で、臨床に密着した研究を中心に研究者のみならず、高度化している薬物治療や臨床開発にも対応できる先導的薬剤師養成をめざします。今後、医療現場では薬学出身者においても博士の学位が重視されることは必須であり、それに対応した教育研究を進めます。

両専攻共に化学、生化学、物理化学、臨床薬学などの多分野の教員が協同して研究教育を推進しており、薬学以外の分野からの入学者も積極的に受け入れます。

法務研究科(法科大学院)

www.ls.keio.ac.jp/

21世紀を先導する法曹を養成。

教育の中心に、国際性、学際性、先端性の3つの理念を核に据え、21世紀の法曹にふさわしい学識と能力を身につけた幅広い人材の育成をめざして平成16(2004)年に開設されました。法律実務はもちろん、より広く企業活動や行政活動をも視野に入れ、社会生活の各方面で活躍し得る多様な人材を養成することを目的としたカリキュラムです。国際舞台や第一線で活躍する研究者や実務家教員の指導のもと、現実志向の学識とスキルを得ることができます。裁判官・検察官・弁護士のみでなく、企業の法務部や官公庁の法律職など、広く社会へ進出することも積極的に支援します。

メディアセンター(図書館)・ITC

三田メディアセンター(旧三田図書館)

メディアセンターは、国内有数の大学図書館として、学術情報利用の面から義塾の教育・学習・研究・医療を支えています。インフォメーションテクノロジーセンターは、慶應義塾の高度情報化に伴う事業の推進、情報環境の整備・運用を担当しています。

三田メディアセンター(旧三田図書館)

〈メディアセンター〉

三田メディアセンター

www.mita.lib.keio.ac.jp/



三田キャンパスには、新館、旧館および平成17(2005)年に開設した南館図書室の3つの図書館があります。キャンパスのシンボルとなっている赤煉瓦の旧館は、重要文化財に指定されています。人文・社会科学分野の資料を中心とした約250万冊の蔵書を有し、電子媒体資料の提供、蔵書のデジタル化にも力を入れています。平成19(2007)年にはグーグル図書館プロジェクトを開始、約12万冊の図書をデジタル化し公開する作業を進めています。

三田メディアセンター(旧三田図書館)

三田メディアセンター(旧三田図書館)

理工学メディアセンター

www.scitech.lib.keio.ac.jp/



理工学系の専門図書館で、1972年に松下電器産業(現パナソニック(株))の創始者、松下幸之助氏の篤志により本館が建設されました。館内の資料は学外の研究者にも広く公開しています。近年は、電子ジャーナル、電子ブック、データベースを積極的に導入する一方で、試験期には24時間オープン自习室、広めの個人ブース、カジュアルなグループ学習室の新設など、学習環境の整備にも力を入れています。さらに、館内に新たなコミュニケーションの場を作ることを目標に、学生スタッフ(S-Circle)が活発に活動しています。

三田メディアセンター(旧三田図書館)

※各メディアセンターは在学生だけでなく、すべての義塾関係者が利用できることを基本としています。慶應義塾の図書館を生涯自分の学術活動の拠り所とできることは、卒業生の大きな特典といえます。卒業生は「塾員入館券(有料)」の発行を受けることにより、入館し蔵書を開覧することができます。慶應カードをお持ちの方も入館することができます。

日吉メディアセンター

(日吉図書館)

www.hc.lib.keio.ac.jp/

(協生館図書室)

www.hc.lib.keio.ac.jp/kyoseikan/



1・2学年が学ぶキャンパスにある、学生が初めて触れる大学図書館です。幅広い分野、種々の形体の蔵書を備え、専門課程に進級する前に、大学生活に欠かせない図書館と情報の利用法を身につけてもらうことを使命としています。情報リテラシー教育に力を入れ、授業と連動したセミナーを数多く実施し、学習支援を行っています。同時に、日吉に設置されている大学院3研究科の研究支援も行っています。

日吉メディアセンター(旧日吉図書館)

湘南藤沢メディアセンター

(湘南藤沢図書館)

www.sfc.lib.keio.ac.jp/

(看護医療学図書室)

www.sfc.lib.keio.ac.jp/nmc/



湘南藤沢メディアセンター(旧湘南藤沢図書館)

湘南藤沢キャンパスの「問題発見・問題解決型」教育を、情報の入手・作成・発信の側面から支援しています。“デジタルライブラリー”の実現をめざし、オンラインリクエストやデータベース、電子ジャーナルなど、館外からアクセス可能なサービスを充実させています。また、AV機器、音響・映像スタジオなどの設備を整え、授業や様々なコンテンツ制作に活用されています。

湘南藤沢メディアセンター(旧湘南藤沢図書館)

信濃町メディアセンター

www.med.lib.keio.ac.jp/



初代医学部長、北里柴三郎博士の遺志を汲んで1937年に建てられた「北里記念医学図書館」は現在の組織名を信濃町メディアセンターと言います。国内有数の医学専門図書館として、医学、看護医療学を始め、広くライフサイエンス分野の資料を所蔵すると同時に、幅広い分野の電子資料へのアクセスを提供しています。開設当初から週末も開館し、学外の研究者、医療従事者へ門戸を開放してきました。電子リソース活用講座を始めとする情報リテラシー教育にも力を注いでいます。

信濃町メディアセンター(旧信濃町図書館)

信濃町メディアセンター(旧信濃町図書館)

薬学メディアセンター

www.pha.lib.keio.ac.jp/



薬学を中心にライフサイエンス系の資料を提供する専門図書館で、薬学部2年生以上が学ぶ芝共立キャンパス3号館の3階と4階(保存書庫)に位置します。館内は、PCを用いて電子学術情報にアクセスするエリアと、静かに勉学に励む閲覧席に分かれ、薬学を志す学生達を支えています。所蔵する多くの資料は学生や教職員だけでなく、医療人として活躍する卒業生にも広く活用されています。

薬学メディアセンター(旧薬学図書館)

〈ITC〉

インフォメーションテクノロジーセンター(ITC)

www.itc.keio.ac.jp/

昭和56(1981)年、わが国で最初のキャンパス内ネットワークが矢上キャンパスに誕生しました。それから9年後の平成2(1990)年、高度に情報化された湘南藤沢キャンパスが開設され、翌平成3(1991)年には、三田、日吉、信濃町、矢上、湘南藤沢の各キャンパス間の相互接続が実現しました。当初、一部の研究者の尽力により草の根的に広がってきたネットワークは、次第に教育・研究に幅広く利用されるようになりました。ITC(インフォメーションテクノロジーセンター)は、平成11(1999)年2月に発足、ITC本部、三田ITC、日吉ITC、信濃町ITC、理工学ITC、湘南藤沢ITC、芝共立ITCにより構成されています。各キャンパスにはパソコンからワークステーション、計算サーバーにいたる種々のコンピュータが設置され、光多重化装置を用いた基幹ネットワークにより、超高速で相互に接続しています。これらのネットワークを中心とした情報基盤利用の促進、慶應義塾の高度情報化に伴う事業の促進、情報基盤設備の充実などを行うことが、ITCの大きな役割です。平成16(2004)年7月にはITCは大学の所属機関から、慶應義塾の機関となり一貫教育校も含めた、慶應義塾全体に情報基盤を提供することによって、義塾の研究・教育の発展と円滑な運営に寄与することを目的として新たにスタートしました。

ITC(インフォメーションテクノロジーセンター)

ITC(インフォメーションテクノロジーセンター)

ITC(インフォメーションテクノロジーセンター)

ITC(インフォメーションテクノロジーセンター)

ITC(インフォメーションテクノロジーセンター)

ITC(インフォメーションテクノロジーセンター)

ITC(インフォメーションテクノロジーセンター)

ITC(インフォメーションテクノロジーセンター)

ITC(インフォメーションテクノロジーセンター)

ITC(インフォメーションテクノロジーセンター)

ITC(インフォメーションテクノロジーセンター)

ITC(インフォメーションテクノロジーセンター)

ITC(インフォメーションテクノロジーセンター)

ITC(インフォメーションテクノロジーセンター)

ITC(インフォメーションテクノロジーセンター)

ITC(インフォメーションテクノロジーセンター)

ITC(インフォメーションテクノロジーセンター)

ITC(インフォメーションテクノロジーセンター)

ITC(インフォメーションテクノロジーセンター)

ITC(インフォメーションテクノロジーセンター)

ITC(インフォメーションテクノロジーセンター)

ITC(インフォメーションテクノロジーセンター)

ITC(インフォメーションテクノロジーセンター)

ITC(インフォメーションテクノロジーセンター)

ITC(インフォメーションテクノロジーセンター)

ITC(インフォメーションテクノロジーセンター)

ITC(インフォメーションテクノロジーセンター)

ITC(インフォメーションテクノロジーセンター)

ITC(インフォメーションテクノロジーセンター)

ITC(インフォメーションテクノロジーセンター)

研究所・附属施設など

慶應義塾の研究所・附属施設

慶應義塾は、学部以外の幅広い活動の場として研究所・附属施設を多数設置し、従来の学問領域にとどまらない柔軟な研究環境を構築しています。

産・官・学など、自由なネットワークのもと、ユニークで独創的な活動は内外から注目されています。

慶應義塾の研究所・附属施設

慶應義塾の研究所・附属施設

慶應義塾の研究所・附属施設

慶應義塾の研究所・附属施設

アート・センター

www.art-c.keio.ac.jp/

諸価値が多様化する現代社会の状況を反映しているアートの領域を対象に、新しいイメージの創出と受容、現代文化のあり方の模索を目的に創設。各種催事、アート・マネジメントに関する教育と啓蒙、アーカイヴの構築などが主たる事業です。

アート・センター

アート・センター

アート・センター

アート・センター

アート・センター

アート・センター

アート・センター

アート・センター

アート・センター

アート・センター

アート・センター

アート・センター

アート・センター

アート・センター

アート・センター

アート・センター

アート・センター

アート・センター

アート・センター

アート・センター

アート・センター

アート・センター

アート・センター

アート・センター

アート・センター

アート・センター

アート・センター

アート・センター

アート・センター

アート・センター

アート・センター

アート・センター

アート・センター

アート・センター

アート・センター

アート・センター

アート・センター

アート・センター

アート・センター

アート・センター

アート・センター

アート・センター

アート・センター

アート・センター

アート・センター

アート・センター

アート・センター

アート・センター

外国語教育研究センター

www.flang.keio.ac.jp/

義塾の外国語教育を全体的に捉え、活動する研究機関。特色ある外国語科目の開講や自律学習環境の提供を行い、国際舞台で通用する言語運用能力の習得を目指す塾生を支援しています。塾生対象の英語論文コンテヴの構築などが主たる事業です。

外国語教育研究センター

外国語教育研究センター

外国語教育研究センター

外国語教育研究センター

外国語教育研究センター

外国語教育研究センター

外国語教育研究センター

外国語教育研究センター

外国語教育研究センター

外国語教育研究センター

外国語教育研究センター

外国語教育研究センター

外国語教育研究センター

外国語教育研究センター

外国語教育研究センター

外国語教育研究センター

外国語教育研究センター

外国語教育研究センター

外国語教育研究センター

外国語教育研究センター

外国語教育研究センター

外国語教育研究センター

外国語教育研究センター

外国語教育研究センター

外国語教育研究センター

外国語教育研究センター

外国語教育研究センター

外国語教育研究センター

外国語教育研究センター

外国語教育研究センター

外国語教育研究センター

外国語教育研究センター

外国語教育研究センター

外国語教育研究センター

外国語教育研究センター

外国語教育研究センター

外国語教育研究センター

外国語教育研究センター

外国語教育研究センター

外国語教育研究センター

外国語教育研究センター

外国語教育研究センター

外国語教育研究センター

外国語教育研究センター

外国語教育研究センター

外国語教育研究センター

外国語教育研究センター

外国語教育研究センター

教職課程センター

www.ttc.keio.ac.jp/

教職課程の運営のほか、教員養成に関する調査・研究を推進。学生は教職課程センターに登録(例年300名前後が新規登録)し、所定の科目を履修することで中学校および高等学校の教員普通免許状に必要な単位を修得できます(一部学部除く)。

教職課程センター

教職課程センター

教職課程センター

教職課程センター

教職課程センター

教職課程センター

教職課程センター

教職課程センター

教職課程センター

教職課程センター

教職課程センター

教職課程センター

教職課程センター

教職課程センター

教職課程センター

教職課程センター

教職課程センター

教職課程センター

教職課程センター

教職課程センター

教職課程センター

教職課程センター

教職課程センター

教職課程センター

教職課程センター

教職課程センター

教職課程センター

教職課程センター

教職課程センター

教職課程センター

教職課程センター

教職課程センター

教職課程センター

教職課程センター

教職課程センター

教職課程センター

教職課程センター

教職課程センター

教職課程センター

教職課程センター

教職課程センター

教職課程センター

教職課程センター

教職課程センター

教職課程センター

教職課程センター

教職課程センター

教職課程センター

教養研究センター

http://lib-arts.hc.keio.ac.jp/

多分野にわたる教養教育に関する研究活動を推進することを目的に設置。大学教育カリキュラムの研究、身体と言語のあり方をめぐって新しい「知」を探り、言語育成を目指す研究や実験授業、学問的・知的活動のためのスキル・考え方を身につけるアカデミック・スキルズを学部横断的に提供しています。

教養研究センター

教養研究センター

教養研究センター

教養研究センター

教養研究センター

教養研究センター

教養研究センター

教養研究センター

教養研究センター

教養研究センター

教養研究センター

教養研究センター

教養研究センター

教養研究センター

教養研究センター

教養研究センター

教養研究センター

教養研究センター

教養研究センター

教養研究センター

教養研究センター

教養研究センター

教養研究センター

教養研究センター

教養研究センター

教養研究センター

教養研究センター

教養研究センター

教養研究センター

教養研究センター

教養研究センター

教養研究センター

教養研究センター

教養研究センター

教養研究センター

教養研究センター

教養研究センター

教養研究センター

大学病院

www.hosp.keio.ac.jp/index.htm



特定機能病院として日本の医療に貢献

当大学病院は、「特定機能病院」として運営され、高度の医療を提供しつつ、それに関する研究・開発・評価・研修などを行える医療体制を完備しています。

29の診療科は、それぞれ高度に専門化された診療チームから構成され、現在望みうる最高レベルの医療技術の提供を使命としています。一方で診療科の独自性を尊重しつつ、小児科と小児外科が病床を共有するなど、診療科の固有床を減らし共有床を増加することによって診療科間の連携が強まり、患者さんのためによりよい医療を提供できるようになっています。今後は診療クラスター構想の実現を図るなどアカデミックとプロフィットを兼ね備えた東洋一、ひいては世界のトップクラスのメディカルセンターを目標に改革を進めていくことになっています。



医療体制・サービスの向上をめざして

当大学病院では、患者さんの視点からみた患者さんにやさしい医療の提供をめざして「患者サービス向上検討委員会」を設置、電光掲示板の設置など、様々な取り組みを進めています。また、外来では診断の迅速化を図る「診療前採血」システムの導入、セカンドオピニオン、腫瘍センター、免疫統括医療センターを開設しました。さらに、医療事故を未然に防ぐための「安全対策委員会」を設け、各診療科にセーフティ・マネージャーを配置するといった実効性の高い安全管理制度を整えました。

また、こうした活動と並行して、最先端の情報・通信技術の医療現場への導入も進めており、その一つとして、平成20(2008)年3月からレントゲンフィルムなどのフィルムレス化が実施されています。さらに、全国100ヶ所以上の関連病院の紹介サイトを立ち上げ、全国規模でのスムーズな医療サービスの提供をめざしています。



慶應義塾大学病院は、大正6(1917)年の慶應義塾医学科創設以来、日本の医学界をリードする「慶應医学」の担い手として中心的な役割を果たしてきました。この間、多くの優秀な医学者を輩出するとともに、日本各地に展開する関連病院の核として地域医療の発展にも貢献しています。医療機関へのニーズが急速に高度化、多様化するなか、アート(医療技術)、サイエンス(科学研究)、ヒューマニティ(心)の3点を尊重しながら、人にやさしい医療を追求・実践しています。

外来患者数(1日平均)	4,069人
病床数	1,061床
診療科	29科・6部門

平成21(2009)年度実績

外来診療について

診療科	
3階	麻酔科/精神・神経科/歯科・口腔外科
2階	形成外科/小児科/小児外科/産科/婦人科/眼科/皮膚科 耳鼻咽喉科感染症クリニック/老年内科/総合内科/遺伝相談外来 循環器内科/メモリークリニック
1階	内科(神経、呼吸器、腎臓・内分泌・代謝、消化器、血液、リウマチ) 外科(一般・消化器、心臓血管、呼吸器、脳神経) 整形外科/泌尿器科/リハビリテーション科/救急科/腫瘍センター 免疫統括医療センター
B1階	放射線科(放射線治療科、放射線診断科) スポーツクリニック(アスリート外来、運動療法外来)/漢方クリニック

診療受付時間

初診・再来受付(予約のない方) 8:40～11:00
 再来受付(予約のある方) 午前の部 7:00～11:00
 午後の部 7:00～来院指定時刻
 *午後は原則として予約された患者さんのみの診療です。

休診日

日曜日、祝日、第1・第3土曜日 年末年始(12月30日～1月4日)
 慶應義塾の休日(1月10日、4月23日)

電話

診療案内 tel. 03(3353)1200・1201
 1階受付 内科/外科/整形外科/泌尿器科
 tel. 03(3353)1202・1203
 2階受付 老年内科/形成外科/小児科
 小児外科/産科/婦人科/眼科/皮膚科
 耳鼻咽喉科
 tel. 03(3353)1204
 3階受付 歯科・口腔外科/精神・神経科/麻酔科
 予約変更 tel. 03(3353)1205
 薬剤 tel. 03(3353)1211(内線62500)
 その他のお問い合わせ
 tel. 03(3353)1211(代表)
 〒160-8582 東京都新宿区信濃町35

あゆみ

- 1873 明治6年 医学所開設。校長松山棟庵(1880年廃校)
- 1917 大正6年 医学科予科開設。学部長北里柴三郎
- 1920 大正9年 医学部開設。大学病院開院。(木造2階建。内科、外科、整形外科、小児科、産婦人科、眼科、皮膚泌尿科、耳鼻咽喉科、神経科、理学的診療科、歯科の各診療室および「い」号から「と」号の各病棟ほか)
- 1921 大正10年 雑誌『慶應医学』創刊
- 1929 昭和4年 予防医学教室竣工
- 1932 昭和7年 別館病棟竣工
- 1945 昭和20年 空襲により病院本館・基礎医学教室など建物の約6割を焼失
- 1948 昭和23年 病院本館竣工(木造2階建、各科外来診療部、病床153、昭和38年取り壊し)
- 1952 昭和27年 『The Keio Journal of Medicine』創刊
「ほ」号病棟(現臨床研究棟)竣工
- 1953 昭和28年 「に」号病棟(現6号棟)竣工
- 1954 昭和29年 特別病棟(現7号棟)竣工
- 1963 昭和38年 中央棟竣工
- 1965 昭和40年 1号棟竣工
- 1973 昭和48年 亀谷記念伊勢慶應病院、義塾へ移管(地上7階、地下1階、371床、翌年慶應義塾大学伊勢慶應病院と改称)
- 1977 昭和52年 月が瀬リハビリテーションセンター竣工(地上5階、180床)
- 1987 昭和62年 新棟(現2号館)開院(地上11階、地下2階、コンピュータを利用した総合医療情報システム稼働、871床から、1,071床に増床)
- 1990 平成2年 2号棟を臨床研究棟に改修
- 1994 平成6年 特定機能病院として承認
- 1996 平成8年 新教育研究棟竣工
- 2001 平成13年 総合医科学研究棟竣工
- 2003 平成15年 慶應義塾大学伊勢慶應病院閉院
卒後臨床研修センター開設
大学病院経営ボード発足
- 2007 平成19年 クリニカルリサーチセンター発足
- 2008 平成20年 臨床研究棟竣工
- 2010 平成22年 3号館(北棟)竣工



画像ネットワーク導入



3号館(北棟)2010年11月竣工



臨床研究棟2008年1月竣工

3号館(北棟)は、臨床研究棟と連携して学部間・大学間に及ぶ先端的臨床研究の発信と異分野融合を推進するための人材育成の拠点として、大きな役割を果たすことが期待されています。

月が瀬リハビリテーションセンター(KTRC)

www.ktrc.med.keio.ac.jp/

昭和52(1977)年、わが国のリハビリテーション医学・医療を担うパイオニアとして開設。以来、リハビリ診療施設として、地域の医療にも貢献しつつ、大学付属施設として、医療・研究・教育の拠点の役割を果たしてきましたが、大都市からのリハビリテーション医療需要の減退や保険診療制度の変化などから平成24年3月31日までに閉院することになりました。今後は、リハビリテーション医療と地域医療体制の再編にも協力しつつ、慶應医学が取り組むべきリハビリテーション医学の方向性、将来展望について検討してまいります。

診療科目 リハビリテーション科/整形外科/内科
 外来受付時間 9:00～11:00
 お問い合わせ tel. 0558(85)1701
 〒410-3293 静岡県伊豆市月ヶ瀬380-2

慶應義塾を支えるネットワーク

寄付金

www.kikin.keio.ac.jp/

私学である慶應義塾は、福澤諭吉の精神のもと、塾員（卒業生）、塾生保護者、一般有志、法人の皆様からのあたたかいご支援をいただいで、伝統と名声を築いています。慶應義塾は、21世紀の国際社会を先導し貢献する学塾をめざすため、教育・研究・医療活動の発展、学生生活の向上に取り組み、皆様のご芳志を有効に活用しております。寄付金は、奨学金、施設設備資金、教育・研究資金、体育強化資金、各種基金など、慶應義塾の行っている各種事業へ具体的に用途指定をすることができます。個人、法人を問わず募金活動にご賛同を賜り、ご支援いただいた寄付金は、慶應義塾にとって大きな支えとなっています。

奨学制度

奨学制度

www.gakuji.keio.ac.jp/life/shogaku/

〈奨学金〉

学業成績・人物ともに優秀な学生を育英するため、また、経済的理由から修学困難な学生に経済援助をするため、慶應義塾では独自の制度（給付）をはじめ様々な奨学制度（給付貸与）があります。いずれも、将来の国際社会に寄与する人材の育成ならびに教育の機会均等などを図ることを目標としています。

〈教育ローン制度〉

平成22年度から、金融機関4行と提携し「慶應義塾大学教育ローン制度」を創設しました。一般の教育ローンより低金利で慶應義塾大学に納付する入学金・授業料等の学費を借り入れることが可能です。申込手続きは大学を通さず、直接提携金融機関と行っていたく制度になります（融資条件等は金融機関によって異なります）。

維持会

www.kikin.keio.ac.jp/jikkai/

明治34（1901）年、福澤諭吉逝去の直後に、将来の義塾経営に万全を期するため、社中の総意により結成されたのが慶應義塾維持会です。現在は全国に9支部を置き、会員は約4万4,100名におよんでいます。慶應義塾は、義塾という名が示すとおり、「社中」の協力の精神により維持・運営されてきました。創立から現在に至るまで、義塾が常に第一級の研究・教育の精神が連綿と受け継がれてきたからです。維持会はこの社中協力を体現する組織として、100有余年にわたり義塾を支えてきました。卒業生を中心とする寄付金をもって基金化し、義塾の教育・研究活動の維持・発展に寄与することを目的に現在は、奨学事業を中心に義塾の中で、財政貢献を果たしています。

三田会

http://www2.jukuin.keio.ac.jp/

社中協力の精神に基づく義塾関係者の結びつきの強さは、慶應義塾が誇る特色の一つであり、その中で義塾と卒業生である塾員、および塾員相互の交流の架け橋となっているのが、同窓会組織である「三田会」です。これら三田会を取りまとめているのが「慶應連合三田会」です。登録している三田会は現在、約860団体を数え、約33万人の塾員の多くが複数の三田会に所属しています。それぞれの三田会では、総会、家族会、ボランティア活動、新入生歓迎会など、独自に定例の会を設け、塾員の親睦を図っているほか、三田会同士の連携も進んでいます。また、義塾の塾長・常任理事をはじめ義塾関係者が三田会へ赴いて折々の義塾の近況報告を行っています。



公開講座・生涯学習

公開講座・生涯学習

www.keio.ac.jp/ja/education/lifelong_learning/

慶應義塾では、生涯教育の提供は社会における使命であると捉え、多くの人々が幅広い分野の知識や教養に気軽に触れられる場を提供しています。公開講座や講演会は、年間を通じて各キャンパスや学外の会場で開催されています。講座の中には

慶應義塾外国語学校

www.fl.s.keio.ac.jp/

三田キャンパスにある外国語学校では、12ヶ国語14語学科のコースが主に夜間に開講され、年代や職種を超えて塾内外の多くの受講生が学んでいます。コースは基礎、初級、中級、上級の4段階に分かれ、学生一人ひとりの修得度を厳正に判定して、個人に適した授業内容を提供しています。そのため、自分のレベルに応じて着実に学ぶことができます。いくつかのクラスでは外国語学校で開発したオリジナルの教材を使用しています。また、上級修了者あるいは同等の語学力がある学生を対象にセミナークラスを開講している語学科もあります。クラスではその言語のみならず、言語を通じてその国や地域の文化・風俗・習慣・芸術、その他の事柄についても学ぶことができます。また、特別講座として、三田では英語、TOEICやTOEFL対策講座、ビジネス・イングリッシュを、日吉では英・独・仏の3ヶ国語およびTOEIC対策講座、ビジネス・イングリッシュを開講しています。

体育会

体育会

www.uaa.keio.ac.jp/

体育会は、体位の向上を図るとともに、品性の陶冶に資することを目的として明治25（1892）年に誕生した、塾生の自治組織の一つです。教育におけるスポーツの重要性を認識していた福澤諭吉は積極的にスポーツを導入し、その振興に努めてきました。現在は40の部を擁し、大学を代表する公式スポーツ大会には各部が出場し、優秀な成績を

公開講座

www.keio.ac.jp/ja/education/lifelong_learning/

慶應義塾では、生涯教育の提供は社会における使命であると捉え、多くの人々が幅広い分野の知識や教養に気軽に触れられる場を提供しています。公開講座や講演会は、年間を通じて各キャンパスや学外の会場で開催されています。講座の中には

慶應義塾大学ビジネス・スクール(KBS)

www.kbs.keio.ac.jp/

慶應義塾大学ビジネス・スクール(KBS)では、種々の階層でマネジメントに携わる方々を対象とした、各種セミナーを開講しています。ここでは、専門的マネジメント能力として、経営管理の基本や諸側面に関する理解を深めるとともに、変わりゆく環境において変化を見極めるいわば動体視力と、想像力を生む知恵を磨くことを教育目的としています。教育の大きな特徴は、ケースメソッドを中心的に採用していること。現実の企業経営の実態をもとにして作成された多数のケース(教材)を用いて訓練を繰り返すことで、実践的な経営管理能力とリーダーシップを養うことができます。KBSでは、精鋭幹部のための「マネジメント・ディベロップメント・プログラム」、トップ・マネジメントのための「高等経営学講座」、中堅幹部のための「経営幹部セミナー」、特定分野を集中して受講することが可能な「週末集中セミナー」、時代のニーズに応えるビジネス創造をめざす方のための「ISSUEセミナー」の5プログラム群を展開しています。

公開講座

www.keio.ac.jp/ja/education/lifelong_learning/

自治体や非営利団体との共催によるものもあります。生涯学習の場としては、ビジネス・スクール、通信教育課程、外国語学校、慶應丸の内シティキャンパスが多彩なプログラムを展開しています。また、科目等履修生など特別学生の制度を設けています。

慶應丸の内シティキャンパス（慶應MCC）

www.keiomcc.com/

慶應丸の内シティキャンパス（慶應MCC）は、慶應義塾が株式の大半を保有する株式会社慶應学術事業会が運営する社会人教育機関です。ビジネスの中心地である東京・丸の内において、“実践と理論の架け橋”をコア・コンセプトに掲げ、ビジネスパーソンに向けたテーマで独自のプログラムを開催しています。慶應義塾の教授陣をはじめ、各界の第一線で活躍する実務家・専門家を講師に招き、①仕事の方法論を学ぶ「知的基盤能力プログラム」、②専門性を深める「先端・専門プログラム」、③時代の潮流と深層を読み解く講演会『夕学（せきがく）五十講』、④人間力を養う講座『夕学プレミアム agora（アゴラ）』の4つのプログラム・講座群を展開しています。

■講演会

三田演説会
ウェーランド経済書講述記念講演会

公開講座

www.keio.ac.jp/ja/education/lifelong_learning/

自治体や非営利団体との共催によるものもあります。生涯学習の場としては、ビジネス・スクール、通信教育課程、外国語学校、慶應丸の内シティキャンパスが多彩なプログラムを展開しています。また、科目等履修生など特別学生の制度を設けています。

■公開講座 など

小泉信三記念講座／港区民大学／慶應言語学コロキアム・公開講座（言語文化研究所）／産業研究所公開講座／福澤研究センターセミナー・講演会／ 水道文庫講演会／教職課程センター公開研究会／アート・センターの主催する企画／知的資産センターの主催する企画／グローバルセキュリティ研究所の主催する企画／東アジア研究所の主催する企画／日吉キャンパス公開講座／スポーツ医学研究センター公開講座／慶應義塾大学理工学部市民講座／湘南藤沢キャンパス藤沢市民講座／薬学部生涯学習センター公開講座／慶應大版りバーサイドキャンパスで開催する講座

■生涯学習
通信教育課程
www.tsushin.keio.ac.jp/

特別学生(科目等履修生・特別聴講生・研究生)
www.gakuji.keio.ac.jp/tokubetu/

薬学部生涯学習センター（通信講座／栄養情報担当者（NR）養成講座 など）
www.pha.keio.ac.jp/pharmacy/o_class.html

福澤諭吉記念文明塾
www.fbj.keio.ac.jp/

■講演会
三田演説会
ウェーランド経済書講述記念講演会

■講演会
三田演説会
ウェーランド経済書講述記念講演会

■講演会
三田演説会
ウェーランド経済書講述記念講演会

■講演会
三田演説会
ウェーランド経済書講述記念講演会

新種目団体（3競技団体）
所属団体（8競技団体）
四谷部（医学部生による23競技団体）
矢上部（理工学部生による17競技団体）



なお、このほかに、広く一般学生の運動、競技を奨励・指導するために、次の「体育会準会員組織」を設けています。

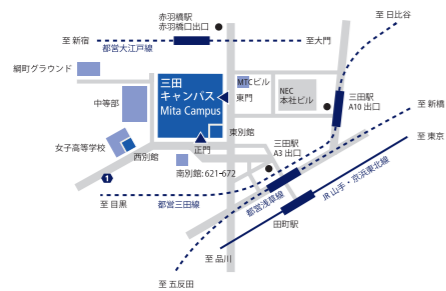
^[1] 注：すべて学部データの平成22(2010)年3月31日現在　＊は2010年度実績

キャンパス

慶應義塾は幼稚舎から大学・大学院に至る一貫教育を基本理念としています。
大学キャンパスは6ヶ所、これらに隣接する学校のほか、単独のキャンパスで独自の雰囲気・校風を持つ学校もあります。

三田キャンパス

www.keio.ac.jp/ja/about_keio/campus/mita/



文学部2・3・4年
経済学部、法学部、商学部3・4年
文学研究科／経済学研究科／法学研究科／社会学研究科／商学研究科／法務研究科
〒108-8345 東京都港区三田2-15-45 tel.03-5427-1517(総務部)

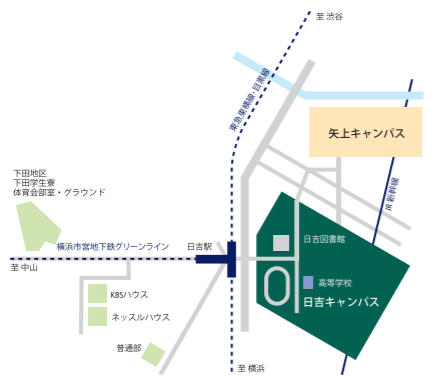
女子高等学校
〒108-0073 東京都港区三田2-17-23 tel.03-5427-1674(代)

中等部
〒108-0073 東京都港区三田2-17-10 tel.03-5427-1677(代)

- JR山手線・京浜東北線 田町駅下車(徒歩約8分)
- 都営地下鉄浅草線・三田線 三田駅下車(徒歩約7分)
- 都営地下鉄大江戸線 赤羽橋駅下車(徒歩約8分)

日吉キャンパス

www.hc.keio.ac.jp/



文学部、医学部、薬学部1年
経済学部、法学部、商学部、理工学部1・2年
経営管理研究科／システムデザイン・マネジメント研究科／メディアデザイン研究科
〒223-8521 神奈川県横浜市港北区日吉4-1-1 tel.045-566-1000(運営サービス)

高等学校
〒223-8524 神奈川県横浜市港北区日吉4-1-2 tel.045-566-1381(代)

普通部
〒223-0062 神奈川県横浜市港北区日吉本町1-45-1 tel.045-562-1181(代)

- 東急東横線・目黒線／横浜市営地下鉄グリーンライン 日吉駅下車(徒歩約1分)
- ※東急東横線の特急は日吉駅に停まりません

矢上キャンパス

www.st.keio.ac.jp/

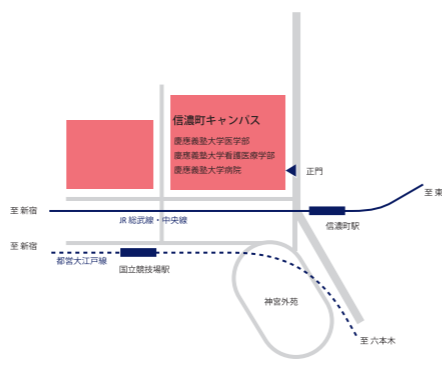


理工学部3・4年
理工学研究科
〒223-8522 神奈川県横浜市港北区日吉3-14-1 tel.045-566-1454(総務課)

- 東急東横線・目黒線／横浜市営地下鉄グリーンライン 日吉駅下車(徒歩約15分)(約1km)
- ※東急東横線の特急は日吉駅に停まりません
- JR横須賀線 新川崎駅下車(タクシー約10分)(約2km)

信濃町キャンパス

www.sc.keio.ac.jp/

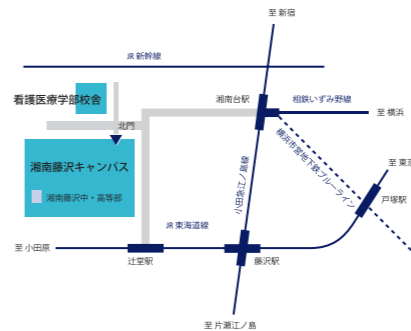


医学部2・3・4・5・6年
看護医療学部3年
医学研究科
慶應義塾大学病院
〒160-8582 東京都新宿区信濃町35 tel.03-3353-1211(代)

- JR総武線 信濃町駅下車(徒歩約1分)
- 都営地下鉄大江戸線 国立競技場駅下車(徒歩約5分)

湘南藤沢キャンパス

www.sfc.keio.ac.jp/



総合政策学部／環境情報学部／政策・メディア研究科
〒252-0882 神奈川県藤沢市逸藤5322 tel.0466-49-3404(総務担当)

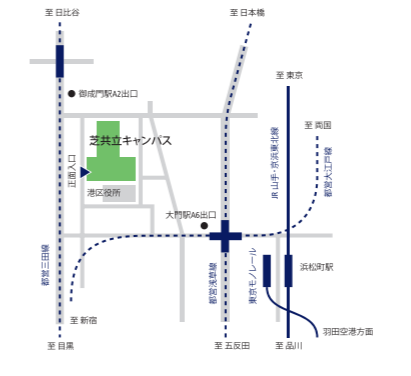
看護医療学部1・2・4年
健康マネジメント研究科
〒252-0883 神奈川県藤沢市逸藤4411 tel.0466-49-6200(看護医療学部担当)

湘南藤沢中等部・高等部
〒252-0816 神奈川県藤沢市逸藤5466 tel.0466-49-3584～3586(代)

- 小田急江ノ島線／相鉄いずみ野線／横浜市営地下鉄ブルーライン 湘南台駅下車西口より、バス[慶応大学行]約15分
- JR東海道線 辻堂駅下車北口より、バス[慶応大学行]約25分

芝共立キャンパス

www.pha.keio.ac.jp/



薬学部2・3・4・5・6年
薬学研究科
〒105-8512 東京都港区芝公園1-5-30 tel.03-3434-6241(代)

- JR山手線・京浜東北線 浜松町駅下車(徒歩約10分)
- 都営地下鉄三田線 御成門駅下車(徒歩約2分)
- 都営地下鉄浅草線・大江戸線 大門駅下車(徒歩約6分)

幼稚舎
www.yochisha.keio.ac.jp/

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿2-35-1
tel. 03-3441-7221(代)

志木高等学校
www.shiki.keio.ac.jp/

〒353-0004 埼玉県志木市本町4-14-1
tel.048-471-1361(代)

ニューヨーク学院(高等部)
www.keio.edu/

3 College Road, Purchase, NY 10577 U.S.A.
tel.+1-914-694-4825

新川崎タウンキャンパス(通称:K²タウンキャンパス)
www.k2.keio.ac.jp/

〒212-0032 神奈川県川崎市幸区新川崎7-1
tel. 044-580-1580(代)

鶴岡タウンキャンパス(通称:TTCK)
www.ttck.keio.ac.jp/

〒997-0035 山形県鶴岡市馬場町14-1
tel. 0235-29-0800(代)

浦和共立キャンパス
www.pha.keio.ac.jp/

〒336-0977 埼玉県さいたま市緑区上野田600
tel.048-878-0469(代)

慶應大阪リバーサイドキャンパス
www.korc.keio.ac.jp/

〒553-0003 大阪府大阪市福島区福島1-1-12 堂島リバーフォーラム3階
tel.06-6450-1030